

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-100	13-122	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Serum vitamin B6, folate, and homocysteine concentrations and oxidative DNA damage in Japanese men and women. 日本の男女における血清ビタミン B6・葉酸・ヘモシステイン濃度と酸化 DNA 損傷		
執筆者		
Kuwahara K, Nanri A, Pham NM, Kurotani K, Kume A, Sato M, Kawai K, Kasai H, Mizoue T.		
掲載誌		
Nutrition. 2013 Oct;29(10):1219-23. doi: 10.1016/j.nut.2013.03.014.		
キーワード		PMID
横断研究, 酸化 DNA 損傷, 葉酸, ホモシステイン, ビタミン B6		23800563
要 旨		
<p>目的： ビタミン B を多く摂るとがんのリスクが下がるといわれているが、そのメカニズムは明らかではない。本研究の目的は、ピリドキサール(ビタミン B6 化合物の一種)、葉酸、ホモシステインの血清濃度と、酸化 DNA 損傷のマーカーである尿中 8-ヒドロキシデオキシグアノシンの関係を調べることである。</p> <p>方法： この研究は、日本の二か所の市役所の 21 歳から 66 歳の職員 500 名 (男 293 人、女 207 人) を対象に調査した。血清ピリドキサールとホモシステイン濃度は高速液体クロマトグラフィー(HPLC)で測定した。血清葉酸濃度は化学ルミネセンス免疫測定法で測定した。尿中 8-ヒドロキシデオキシグアノシン濃度は高速液体クロマトグラフィーで測定した。潜在的な交絡因子を調整したピリドキサール、葉酸、ホモシステインの三分位値に対する平均 8-ドロキシデオキシグアノシン濃度を推定するために重回帰分析を用いた。</p> <p>結果： 多変量解析で 8-ドロキシデオキシグアノシン濃度は男性においてピリドキサール濃度と逆の相関であると分かった(P for trend(傾向分析における有意水準)= 0.045)。しかし、女性では関連を認めなかった。男性におけるこの関連は、非喫煙者(P for trend = 0.033)あるいは 1 日に 20g 以下の飲酒者(P for trend = 0.048)でみられた。8-ドロキシデオキシグアノシン濃度は葉酸やホモシステインと明らかな関連は認めなかった。</p> <p>結論： 多変量解析で 8-ヒドロキシデオキシグアノシン濃度は日本人男性においてピリドキサール濃度と逆の相関(P for trend = 0.045)を示したが、女性では有意な関連を認めなかった。</p>		